

坊守のちよつと裏話

親鸞聖人とお赤飯

報恩講には多くのお寺でお赤飯が御齋(おとき)として渡されます。「なぜお赤飯?」と不思議に思われるかたも多いのでは、と思います。

これには諸説あるのですが、一番有力なのがこれ、「親鸞聖人は小豆が大好きだった」説です。地域によってはそのほかのお料理にもほとんど小豆を入れます。「何もそこまで...」と思ってしまうますが、ある地域では厚揚げと椎茸と小豆の炊き合わせといったものまであります。関東では小豆は甘いものというイメージがあるのでちよつと引いてしまいますね(実際にはこの炊



き合わせ、結構美味しいです)。ちなみにこの「親鸞聖人小豆大好き説」は文献には載っていません。あくまで人伝えです。



坊守が手にしているのが報恩講当日、親鸞聖人にお供えするお赤飯の御仏飯で、正式名称は大割盛槽(おおわりもっそう)といいます。特別な器具でギューギュー〜と作ります(でないと崩れてしまいますので。ちなみに昨年崩れました...).そして...重いつ!! 親鸞聖人は案外大食いなのか!?

あれこれ

ギンナン大豊作

今年、西来寺ではギンナンが大豊作でした。境内には2本のいちじょうの木があるのですが、二本とも大豊作!

「ギンナン取り放題」と看板に掲げましたが、近所のご門徒さんが炊き込みごはん調理してもつてきてくださいました。



その美味しかったこと!! 粒はとても大きく、その色は翡翠のようです。聞けば高級食材とのこと。来年も豊作になりますように。

台風被害

こんなことがありました

さる9月30日の台風二十四号、すごかったですね。皆様大丈夫でしたか? 西来寺は傾斜地にあるので、風は特にものすごかったです。うねりのような叫びのような風の音が夜中中響いていました。そして翌日境内を見て回ると本堂前の水屋が何とまるごと吹き飛んでいたのです。幸い隣のクロガネモチの木にそのまま引っかかっていたので、きれいにひっかかっていたので、職人さん3人がかりで、元に戻せました。いやはや、自然の力つてすごいですね。



ホームページで報恩講の写真が見れます! <http://sairaiji.com>

本のプレゼント

ひろさちや先生のサイン入りの本をプレゼントいたします。



・阿彌陀経 現代語訳とその読み方 各一冊
・釈迦にまなぶ



お名前/ご住所/お電話番号 ほしい本のタイトル 報恩講のご感想などご記入の上、ハガキでご応募ください。 締切1月31日 発表は発送を以てかえさせていただきます。

編集後記

今年の報恩講記念講演ですが、ひろ先生はやっぱり90分間立ちっぱなしです。勿論椅子は用意してあるんですが、ひろ先生に「疲れませんか?」と伺ったところ、「立っていた方が頭の回転が速くなるから」とのことでした。そういえば、五木寛之先生も90分間立ちっぱなしでした。五木先生にお伺いしたところ、先生は「足腰の鍛錬のため」と仰いました。うん、すごい人たちはやっぱりすごい...と、思い知らされる今日この頃です。

西来寺報

二〇一八年 冬 第三十二号

お内仏について

前回お話しした、お内仏の話を書きます。前回はお内仏の中心であるご本尊について申し上げましたが、今回はお内仏の中にあるお飾り(お荘厳)についてお話しします。

浄土真宗のお仏壇はお寺の本堂を小さくしたもので、阿弥陀経の世界を表しております。中のお飾りとして中心となるものが花瓶(かひん)と香炉と蠟燭立てですが、この3つを三具足(みつぐそく)といいます。大谷派では、金色の花瓶と水色の香炉、それから鶴亀の蠟燭立てを用います。この三具足がお荘厳の基本となります。花瓶には仏花を入れますが、トゲのある物、異臭のするもの、蔓に巻くものは仏花としては用いません。香炉には抹香(現在では線香)を使います。蠟燭立てには重要な仏事(報恩講など)のほかには蠟燭は使いません。またいつもの仏事(簡



三具足(みつぐそく) 花瓶 香炉 蠟燭立て

単なお朝事)などは輪灯に明かりを灯すだけで良いとされています。輪灯とは仏壇の上からつるされている灯明です。昔は油を使い、灯心に火をつけていましたが、最近ではほとんど電球です。また、ご本尊の前の卓には打ち敷といまして、三角形の織物を正月、彼岸、盆、報恩講にかけます。 さて、皆さんのところにおりんがあると思いますが、おりんをたたくのはお勤め合図ですので、たいた後はお勤めをいたしますのが基本です。何となくお内仏の前でたたく方がおいででしょうか、お勤めの合図ということ覚えておいてください。 さて、意外でしょうが浄土真宗で



11月 境内に咲くツブキの花

合掌

は位牌を用いませぬ。過去帳ないし法名軸を使います。そのいわれは亡くなった方がこの私に「南無阿弥陀仏」のご縁を伝えてくださった。大切な諸仏としてそこにましますということです。この私も後世の子孫にその「南無阿弥陀仏」という念仏を伝えてゆく、という願いのもとに置かれていくものです。 最後になりましたが、ほとんどのお仏壇には障子や扉があります。これはどういうことでしょうか、実はご本尊を礼拝しないときは閉じておくべくものです。ご本尊を礼拝するときこそ、私にとっての仏様ということなのです。掃除をするときご本尊にホコリを出したくないですからね。

行事のご案内

大晦日と元旦

除夜の鐘の打鐘(大晦日)

十二月三十一日(月) 午後十一時四十五分

修正会(元旦)

一月一日(火) 午前十時

修正会は元日に行われる法会で、その年の生活の目標を立て、心を新たに求道の道を進む決意をします。私たちに何かが本心に大切なことであるか。それを改めて考え、新たな一年に臨むのが修正会です。

是非、ご参加ください。



平成三十年 西来寺 報恩講 記念講演 ひろさちや氏 『日本の仏教』

十月二十八日（日曜日）あたたかい日差し、秋の清々しい晴天。今年も多くの方がお参りくださり、おかげさまで今年も本堂は満堂となりました。



〈要約〉講演より抜粋

日本で一番有名な仏教者といえば聖徳太子だと思ふんですね。その聖徳太子が日本に仏教を確立した初めての人だと思ふます。

彼が何言ったかという簡単な事です。「世間虚仮 唯仏是真（せけんこけ ゆいぶつぜしん）」世間は嘘偽りなんだ、ただ仏だけが真実なんだ。と、このことを言ったんです。これが聖徳太子だと思ってください。

まあ考えてみれば世間というのはおかしいものだと思います。皆さんも経験あるでしょう、人に対して良かれと思つてやったことが悪いことになったり、悪いと思つてやるのが良くなったりね。だから世間をそんなに信用するなつてことです。

皆さんは世間のことを、あまりにも信用しすぎていますよ。そんなに世間を信用したらいかんよつて聖徳太子は教えたわけです。

聖徳太子の後、平安時代になると二人の立派な仏教者が出てきます。それが最澄と空海ですね。「あなた方は仏の子でありなさい」と言ったのが最澄です。

そして、空海はどういう風に教えたかという「世の中の人は全ての人が仏さんなんだと思いなさい」というような事を言ったんです。これが最澄と空海の教えなんです。仏教って簡単ですよ。

その次に法然上人、親鸞聖人、道元禪師が出てきます。私はこの5人が世界的に通用する凄い仏教者だったと思ふんです。（中略）

親鸞聖人は日本の仏教者として最初に結婚した人なんです。親鸞聖人の結婚生活の考えってなんだつたんだろうと思ふと「私も不完全、あなたも不完全、ともに不完全な人間が助け合つて生きていく」ということだったんじゃないかと思ふんですね。それが本当の夫婦のあり方、念仏者の在り方じゃないかと思ふんです。そういう生き方のできるのが日本の仏教者だと私は思つています。

宗教っていうのは完全な人間を目指せと教えてないんです。完全なのは仏様だけで我々人間である限り出来損ないですよ。その出来損ないであることを許しあつて生きる。それがお念仏者の姿なんだと思つていただきたいんです。私たちは不完全なんだと、不完全なものの同士、不完全なまま、悪人のまま、助け合つて、許し合つて生きていけばいいんです。



終演後

インタビュー

みなさんに
ご感想をうかがいました



本日の講演は
いかがでしたか？



ひろ先生に会つたたびに、元気になります。去年の講演と今日で2回目、1年ぶりに先生に会えました。一年に一回は少ないです。もっと先生にお会いしたいです。

「それぞれの人に蜘蛛の糸がある」という言葉。年をとるとヒステリーになつたりする、それでいいんです。女性のこと先生はよく解つてくれているんだと思ひました。

先日とても悲しい出来事があったので、先生の今日の講演を聞いて良かったです。「お釈迦様に見返りを求めちゃダメなんです」という言葉だったかしら。ふわつと心が洗われました。不思議です。

息子といつしよにファンです。息子はとてもまじめに解釈しながら先生の本を読んでるようですが、私は楽しく読んでます。

今日は東京から夫婦で参加しました。ひろせんせいの講演はいつ聴いてもほつとするというか、自分を救つてくれる存在があるんだなつて安心できます。

とても楽しい時間でした。私たち「自分のことは自分で」っていう夫婦なんです。子供もそう。だから「あるがままに、なるようになる」という先生の言葉が印象的。そう、それでいいのよなつて嬉しく思ひました。

終演後、10名の方に感想を聞くことができました。感想が誰も同じでないことにびっくりしました。先生の著書を50冊以上も読まれている方がいらつしたつたので、「ひろ先生の本はまだ読まれていない方に、おすすめの本を教えてください。」と質問したら、こんな答えをいただきました。

「私は図書館でひろ先生の本に会いました。どの図書館にもひろ先生の本は何冊か並んでいると思ひます。その背表紙のタイトルにピンときたもの、それがその人のための一冊だと思ひます。」

私も不完全 あなたも不完全 みんな不完全なんですよ だからいいんです

